

## (熊本県立東稜高等) 学校 令和 4 年度 (2022 年度) 学校評価表

<b>1 学校教育目標</b>
心身を鍛え 節度を重んじ 知能を磨き 徳性を涵養し 国家社会の有為な形成者を育成する

<b>2 本年度の重点目標</b>
1 生徒指導の充実 (生活習慣の確立、規範意識の醸成、自己効力感の向上、職員間連携)
2 学習指導の充実 (教科の専門性の向上、実践的授業力の向上、自学力の育成)
3 進路指導の充実 (系統的指導の充実、自己実現のための基盤づくり)
4 学校環境の整備 (物的環境の整備、人的環境の整備)
5 豊かな人間性の涵養 (個性の伸長、多様性の理解と共生、読書の習慣化)

【A：十分達成できている B：おおむね達成できている C：やや不十分である D：不十分である】

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	学校改革の推進	本校教育に対する生徒・保護者の満足度の向上	評価アンケート「入学に関する意識項目」上位評価割合 80%以上 [生徒]、80%以上 [保護者]	・各分掌部、学年、管理職間のコミュニケーションによるチームワークの向上 ・職員間の学び合いの機会の増加と各種指導力の向上	A	評価アンケート「入学に関する意識項目」上位評価割合が生徒は 83%、保護者のそれは 90% となり、評価平均値でも生徒 3.02、保護者 3.21 となり、生徒保護者の満足度は向上した。今後とも職員間のコミュニケーションを密にして、チームとして生徒の指導に当たり満足度向上に努めたい。
	業務改善・働き方改革	業務の適正化	時間外勤務の縮減 (目標値：前年同月比超過勤務時間平均の 2% 減 / 全体)	・ノー残業デーの徹底 ・超過勤務時間の削減目標の設定 ・業務の整理、削減	A	自動採点システムやカラー複合機の導入により、採点や印刷にかかる時間が着実に削減されている。またアンケートや諸届け等の一部電子化で、業務にかかる時間も削減されつつある。今後も ICT 化と合理化で、業務の合理化を推進し生徒と向き合う時間の確保に努める。
	開かれた学校づくり	本校教育に対する保護者の理解、関心の向上	評価アンケート「学校、家庭の連携、意思疎通に関する意識項目」上位評価割合 90% 以上 [保護者]	・学校 HP や安心メールを活用した学校、生徒、保護者 3 者間の情報共有と連携推進	C	評価アンケート「学校、家庭の連携、意思疎通に関する意識項目」(保護者) 上位評価割合 82% で目標に届かなかった。さらなる連絡の工夫と徹底を図りたい。

		本校教育に対する地域住民、中学校生徒・保護者の理解、関心の向上	者] 評価アンケート「保護者・地域及び中学校への情報発信」上位評価割合90%以上 [保護者 各学年]、[生徒・地域及び中学校への情報発信]上位評価割合90%[生徒]	・学校HPの更新頻度の増加によるHP閲覧数の増加 ・東稜ニュースの発行と配付	B	情報発信関連項目、上位評価割合が生徒で92%、保護者が86%、トータル89%でほぼ目標を達成できた。今後は、保護者へ向けての情報発信を、学校HPや東稜NEWS等の発行を通じて強化していきたい。
学力向上	授業を主体とした学力向上の取組	授業改善と授業の充実（各教科共通の授業技術と教科の専門性の向上）	評価アンケート「授業に関する評価項目」最上位評価割合20%以上[生徒]	・東稜スタンダードの活用とブラッシュアップ ・公開授業の厳格かつ効率的実施 ・生徒授業評価アンケートデータ、職員の授業相互評価データ、学習時間データ、成績データなどのクロス分析	A	評価アンケート「授業に関する評価項目」最上位評価割合は46%（前年30%）、平均評価値でも3.39（前年3.18）となり過去最高値を記録した。リアルでの授業が増え、ICTの活用が進んだ事が要因と考えられる。授業満足度が進路希望達成率に結びつくようにしたい。公開授業等はコロナの影響でほとんど実施出来なかった。
	自学力の醸成	生徒自らが学ぶ姿勢の確立及び学びの力の向上	宅習時間の増加（目標値：全学年過去5年間の平均宅習時間当該学年比5%増加）	・一人一台端末を利用した宅習時間調査による学習状況の把握と調査結果の活用 ・一人一台端末での課題の配信や集計等、利活用促進による学習の効率化	C	1年生で13.2%減、2年生で1.1%減、3年生で13.1%減、という結果であった。一人一台端末自体の活用は大きく進んできたものの、課題に活用する場面と従来通り紙媒体を活用する場面のバランスを取りながら宅習時間の増加を図る必要がある。学習する意義についての話も効果的に行っていきたい。
キャリア教育（進路指導）	キャリア教育の充実	キャリア意識の向上と意欲的なオンラインを活用した体験学習への参加	・今年度のインターンシップは、コロナウイルス感染の危険性を考え実施しない。 ・オープンキ	・一昨年度からインターンシップを実施できていない。今年度は学年部と相談して代替案を考える。 ・オープンキャ		・項目3「進路について日頃から考えており、わからない点は資料を調べたり、先生に聞くようにしている。」の肯定的回答は74%であった。3年生については88%と高い反

			<p>キャンパスへの積極的参加をうながすとともに、オンラインの動画配信を利用して、進路意識の向上を図る。目標は、学校評価アンケート「進路意識、進路活動、職員への進路相談」上位評価割合 75%以上[生徒・職員]</p>	<p>キャンパスの積極的広報と積極的参加の推奨</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な探究の時間の再編を行った。大学探究や課題探究により進路学習の充実を図り、進路に対して自己決定できる力を育成する</li> <li>・進路諸活動記録のポートフォリオ化を促進するため、キャリアパスポートの利用を考える。</li> </ul>	<p>B</p> <p>面、1・2年生については1年 65%、2年 69%と例年並みであった。インターンシップは昨年度と同様に中止としたが、オープンキャンパスなどは Web や対面で実施され、参加をうながしたところではあるが1・2年生の進路意識向上がなかなか図れていない状況である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・項目 4「進路のしおり」等、学校から配布される進路資料は活用しやすい内容となっている。」は肯定的回答 83%と生徒は資料や通信等を読んでいる様子である。また、クラス担任や教科担任でそれを利用して話をしている先生もおられる。</li> <li>・保護者においても項目 3「職員は、生徒一人一人の個性や能力を伸長させ、進路実現に向けてよく指導している。」86%、項目 4「東稜高校は、朝・夕課外や土曜活用などの教育活動に積極的に取り組んでいる。」93%と高い評価を得ている。</li> </ul>
進路目標の達成	生徒を集団と捉える指導と個に応じた組織的な進路指導	<p>熊大等の大学進学者を複数出すことと国公立大合格 50 名以上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・熊大等の国公立大学や難関関東私大を合格 3 名以上</li> <li>・県内国公立大学合格 23 名以上（熊本大学 3 名以上、熊本県立大学 20 名以上）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の進路希望、適性等について分析会などを開催し、職員間の共通理解を図りつつ指導体制を整える</li> <li>・進路行事の精選、時間割クラス編成を工夫し効果的課外実践</li> <li>・各学年部と進路指導部の先生方のタイア</li> </ul>	<p>B</p> <p>現在、学校推薦型選抜や総合型選抜で国公立に合格している生徒は 12 名である。うち国立大学 3 名、公立大学 9 名（熊本県立大学 6 名）である。留学生選抜において福岡女子大学に 1 名合格した。結果、合計 13 名の生徒が合格している。また、昨年度に引き続き筑波大学への合格がでてい</p>	

				<p>ップにより、数年先を見越した生徒の学力保障</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・二者面談、三者面談の充実</li> </ul>		
生徒指導	<p>規範意識に関する指導の充実</p>	<p>東稜高校5つの行動目標を基本とした規範意識の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価アンケート「決まった時間の運動、勉強」上位評価割合85%以上[生徒]</li> <li>・評価アンケート⑩「交通ルール」⑪「言葉遣い」⑫「服装・挨拶」各項目の上位評価割合95%以上[生徒]</li> <li>・特別指導件数の削減（目標値：前年度減）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動時間確保、下校時間の定着、家庭でのスマホ利用の改善</li> <li>・服装頭髪指導、交通指導、校則指導の徹底</li> <li>・ホームルームや授業を通じたの挨拶指導等の徹底</li> </ul>	B	<p>「決まった時間の運動、勉強」上位評価割合は81%であった。目標値は下回り、昨年より1ポイント減少した。放課後の時間の使い方や家庭学習時間の確保が課題である。</p> <p>⑩「交通ルール」99%、⑪「言葉遣い」99%、⑫「服装・挨拶」95%であり、目標値を達成した。しかし、生徒の意識の高さと実態に乖離がある。</p> <p>特別指導件数は2件であり、前年度から1件減少した。しかし、複数で行動し、他人の行動に流される生徒も多く、今後も注意が必要である。</p>
	<p>情報モラル教育の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スマートフォンの適切な使用（使用時間含む）</li> <li>・不適切な使用で起こる危険性の理解</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平日のスマホ使用時間1時間未満の生徒の増加（目標値：全校生徒の30%以上）</li> <li>・校内での不適切な使用で指導される生徒数の学年進行での減少</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報モラル教室、職員研修の実施</li> <li>・実態調査アンケートの実施</li> <li>・他分掌との連携による対策（スマホ通信の発行・スマホダイエットの実施）</li> </ul>		A

						減少した。1年生が12件を占め、初期指導の徹底とタブレットの適正な利用が課題である。
	交通安全教育の徹底および充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通法規の遵守及びマナーの育成</li> <li>・交通事故防止のための危険予測能力の育成</li> <li>・自転車盗難対策</li> <li>・単車通学生に対する指導の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通事故件数の削減(目標値:年間30件未満)</li> <li>・二重ロック率の向上(目標値:平均施錠率95%以上)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危険箇所での交通指導の充実</li> <li>・交通講話の計画・実施</li> <li>・定期的な二重ロック点検の実施</li> <li>・単車通学生実技講習会・単車通学生集会の実施</li> <li>・単車通学生違反者指導の充実</li> </ul>	C	<p>交通事故は35件(自損事故を含む)発生。件数としては前年度(33件)から増加。救急搬送された事故も発生している。交通マナー等に関して外部から厳しい声も多い。二重ロックは98%程度の施錠率。単車実技講習会、単車通学生集会を行ない、交通安全の啓発を行った。</p>
生徒の自主性の涵養	自主的・主体的な活動の推進	学校行事やボランティア活動への積極的参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会を中心とした生徒主体の取組の確立</li> <li>・ボランティア活動による奉仕の精神の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒総会の実施</li> <li>・学校行事、部活動の意義の理解と自己効力感を高める取り組みの実施</li> <li>・生徒会、各種委員会活動の充実</li> <li>・ボランティアの場の提供</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒総会を実施、校則や学校行事等について生徒に意見を求めた。</li> <li>・体育大会、東颯祭(文化祭)、強歩会など大きな行事を制限があるなかではあるが、従来に近い形で実施できた。</li> <li>・生徒会、風紀委員会、保健委員会、図書委員会で連携したスマホダイエット等の活動が優秀活動を受賞。</li> <li>・校外のボランティアも多くが再開され、多数の生徒が参加した。模試などと日程が重なった場合の対応の検討が必要。</li> </ul>
人権教育の推進	人権尊重の精神に立った学校づくり	知的理解を深め人権感覚を育成する指導の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の基本的認識の深化と実践的指導力の向上</li> <li>・評価アンケート⑭「HR、授業にける人権教育指導」上位評価割合95%以上[職員]</li> <li>・生徒の知的</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権教育職員研修の実施</li> <li>・教職員の振り返りチェックの実施</li> <li>・人権教育LHRの実施</li> <li>・「人権だより」の発行</li> <li>・人権が尊重される授業づく</li> </ul>	C	<p>教職員のアンケート上位評価割合は、94.4%で目標を下回った。昨年度の94.9%からも下がっている。職員研修等だけでなく、日頃から人権の大切さを伝える呼びかけを工夫していきたい。生徒のアンケート上位評価割合は94%と昨</p>

			理解と人権感覚の向上 評価アンケート⑩「人権教育における学び」上位評価割合90%以上[生徒]	りの推進		年度の89%を大きく上回り、目標を達成した。今年度は昨年度の反省を踏まえ、人権教育LHRなどをコロナ禍でも実施できるよう形態を変えて実施することができた。
	人としての在り方・生き方に対する自覚の深化	互いを尊重し、良好な人間関係を構築するための生徒の意識の向上	・人間関係の課題を受容し、協働で解決する能力を備えた集団の育成 評価アンケート⑩「クラス雰囲気 有意義な学校生活」上位評価割合93%以上[生徒]	・生徒の交流を促す生徒会を中心とした学校行事の実施 ・SST(ソーシャルスキルトレーニング)の実施	B	アンケート上位評価割合は94%で、目標を達成することができた。例年と形態を変えながらもSST(ソーシャルスキルトレーニング)を実施することができた。それらの生徒の感想も「クラスメートを知ることができて良かった」と肯定的な意見が多く、今後も継続していきたい。
いじめの防止等	命を大切にすることを育む	心のきずなを深める教育の充実	生徒の自他を大切にする心の涵養 評価アンケート⑩「クラス雰囲気 有意義な学校生活」の上位評価割合93%以上[生徒]	・いじめ防止教育LHRの実施 ・心のきずなを深めるための標語作品募集 ・心のきずなを深めるための標語優秀作品の紹介	B	アンケート上位評価割合は94%で、目標を達成した。いじめ防止LHRは昨年度の反省を踏まえ、1年生の入学後の早い時期に実施することができた。標語作品募集では、自他を大切にする事を考えながら作品作りに取り組んだ。
		いじめの未然防止及び早期発見・早期解消	評価アンケート「いじめにあった経験」経験ありの割合15%未満[生徒]	・心のアンケートの実施(年3回) ・いじめ防止の「人権だより」発行による啓発 ・心のアンケートを通して、いじめを訴えた生徒の把握と迅速な対応	B	「いじめにあった経験あり」の割合は10%であり、昨年度の18%からは下がった。いじめ事案の大半は仲の良い友人同士によるもので、SSW(スクールソーシャルワーカー)によると、コロナ禍による人間関係構築の難しさも要因の1つであるとのことであった。引き続き、SST等を通してよりよい人間関係づくりにも取り組んでいきたい。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	防災教育	生徒・保護者・職員の防災に対する意識の向上	評価アンケート「防災教育の積極的な実施」上位評価割合95%[生徒]	・防災通信2回発行 ・生徒防災委員会の定期的活動	B	評価アンケート「防災教育の積極的な実施」上位評価割合について、生徒は95%を維持したが、保護者は87%

			徒]、93%[保護者]、83%[職員]の維持	・防災 LHR の各学年職員と生徒防災委員の事前研修の実施		と数値を落とした。防災通信を発行しておらず、保護者へのアピールに欠けた部分があったのではないかと。来年度にこの反省を活かしていきたい。
		防災教育・避難訓練の内容の充実	評価アンケート「災害時の適切な行動の理解」上位評価割合 95%[生徒]、85%[職員]の着実な維持	・防災教育・避難訓練の内容・方法の再検討（車椅子の生徒の避難訓練を実施）	B	生徒の上位評価割合は97%と上昇させることができた。講演によって具体的なイメージをつけられたところが大きな要因と考える。来年度は学年毎の活動となるが、内容の向上を図っていきたい。
	学校運営協議会	本校の教育活動について協議し、提言を行う	・学校評価について、協議会で審議する。 ・イノベーションハイスクールについて協議会で審議する。	・協議会の委員を、地域代表・地元中学校長・有識者・保護者代表・本校校長とする。	A	今年度は、全て対面で実施できた。学校評価においては、委員から高い評価を得ることができた。また、イノベーションハイスクールについても、貴重な意見を頂いた。
コースの特色	国際コース	語学や異国文化、国際的関心の深化	評価アンケート「国際コースの特色を活かした授業や活動の実施」上位評価割合80%以上[国際コース生徒・保護者]	・台湾永平高級中学校の生徒とのオンラインによる交流 ・各種研修プログラムの活用 ・資格試験の受験奨励・対策	B	アンケート上位評価割合は、生徒90%、保護者88%で目標を上回り、目標を達成できた。前年度から引き続き、台湾の高校生とのオンライン交流を実施できたことやグローバルコミュニケーション研修においては、対面で実施することができたことが評価割合の上昇に繋がったと考えられる。
	理数コース	自然科学や社会における産業技術等への探究	評価アンケート「理数コースの特色を活かした授業や活動の実施」上位評価割合80%以上[理数コース生徒・保護者]	・学校設定科目「科学研究」の充実 ・大学の出前講義等による科学への興味・関心の高揚 ・科学系コンテストや研究発表会、数学検定等への参加の奨励	A	評価アンケートは生徒91%、保護者89%と、ともに上位評価割合が目標を達成できた。サイエンスキャンプ等による大学の模擬授業の実施、検定やコンテストへ参加できた。科学研究については他校の課題研究と同じように中間発表・最終発表を実施することにより、各班の研究内容の充実

						を図ることができた。
生徒理解・教育相談・特別支援教育	生徒の理解および支援の充実	生徒の理解や支援における職員間の連携強化	評価アンケート「生徒理解のための職員間の連携」上位評価割合90%以上 [職員]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援を要する生徒について、担任・学年主任、教科担任、部活動顧問、関係分掌からの情報収集</li> <li>・支援対象生徒に関わる職員で形成するチーム会議における情報の共有と支援分担の確認</li> </ul>	A	アンケート上位評価割合は、91.5%で目標を上回った。支援を要する生徒に関係する職員間の連携が十分にとれた結果だと考えられる。今後もさらに連携をはかり、生徒の支援の充実に努めたい。
		教育相談や特別支援教育に関する教員の資質向上	評価アンケート⑩「支援や配慮を要する生徒に係る研修」上位評価割合90%以上 [職員]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研修を年2回開催</li> <li>・校外研修案内の周知し、受講を促進</li> </ul>	B	アンケート上位評価割合94.4%で目標を上回った。コロナ禍のなかで中止されていた校外研修会が、Zoomなどによって開催され研修の機会が増えたことが要因だと考えられる。今後も周知に努め、先生方の教育相談や特別支援教育に関する資質向上に努めたい。
健康教育	生活習慣の確立	特に、食生活において三食摂取し、バランスのよい食生活を心がけているか。	評価アンケート「朝食の摂取と食生活のバランス」上位評価割合90%以上 [生徒] 評価アンケート「三食の摂取と規則正しい生活」上位評価割合90%以上 [保護者]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝食の重要性、また栄養バランスと学習や運動能力の関係などを保健だよりに掲載する。</li> </ul>	B	保健だよりや保健の授業等の活用により、朝食の大切さを理解させ、上位評価の目標を達成することができた。
		心身の健康や安全に関する十分な指導	新型コロナウイルス感染症防止対策ができていますか。	評価アンケート「心身の健康や安全に関する十分な指導」上位評価割合92%以上 [生徒]	A	保健委員による昼休みの校内放送やマスク着用の呼び掛けにより上位評価の目標が達成できた。
		安全管理体制の確立	施設は安全であると安心できるか。	評価アンケート「施設は整備・点検されていて安全」上位評価割合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全点検を昨年度より早期に行い、緊急度の高い事柄から改善を行う。</li> </ul>	B

			90%以上[生徒]			
		緊急時の対応が確立されているか。	評価アンケート「緊急時の安全確保のための役割自覚」上位評価割合が90%以上[職員]	・職員研修として「救急救命講習会」を実施及び生徒理解研修において、個別の対応を確認する。	C	新型コロナウイルス感染症の影響で「救急救命講習会」が実施できなかった。生徒理解研修では生徒の確認をすることができた。
環境教育	整理整頓、清掃の促進	整理整頓及び清掃を意識し、毎日、掃除に取り組んでいるか。	評価アンケート「掃除への取組」上位評価割合が92%以上[生徒]	・委員会活動による環境掃除チェック及び掃除時間以外での清掃活動を行う。	A	委員会の掃除チェック及び強歩会時の清掃活動の充実で上位評価割合の目標を達成できた。
	環境教育の充実	環境問題を意識した行動をとることができているか。	・学校版ISOの目標を掲げる。また、照明・エアコンのスイッチを利用していない時には、必ず切る。	・環境美化委員だよりも、環境資源問題などを掲載し、電気の無駄使いを少なくする。	B	「学校版ISO宣言」のアナウンスが弱かったと考える。委員会活動を活発にし、職員・生徒にもっと発信していきたい。
図書館教育	読書センターとしての機能充実	読書習慣の確立	貸出冊数の増加(目標値:生徒一人あたりの年間貸出冊数4.5冊以上/年)	全職員の共通認識の下での朝読書指導	B	デジタル化の進行とともに、若い世代の活字離れの進行は著しく、朝読書の重要性は増している。学年により温度差があったことに対しては現在取り組みを行っている。また、現在の年間平均貸出冊数は4.5冊に近づいている。
		生徒、職員が利用しやすい読書センターとしての図書館づくり	図書館来館者の増加(目標値:年間来館者3,000人以上)	・図書館報(年2回発行)、図書館だより(年8回発行)による読書啓発 ・図書館内の装飾や館外掲示による誘い ・上映会・企画展示等図書委員会活動の活性化と企画の充実	A	来館者数は4,700人を超え(2023年1月現在)、目標を上回った。広報誌等を見た後に生徒の来館が増え、企画展示で貸出が増えるなど読書啓発につながった。生徒図書委員会では、夏休みにリーフレット、秋の読書週間に冊子を作成・配付し、お薦めの本を紹介した。生徒・職員から好評であった。その他上映会「ライブラリーシネマ」や読書会も行った。

<p>学習センターとしての機能充実</p>	<p>各部、各学年、各教科との連携</p>	<p>図書館利用授業時数の増加 (目標値：年間 60 時間以上)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画的、組織的に蔵書バランスに配慮した選書の継続</li> <li>・部、学年、教科と連携した必要資料の事前準備</li> <li>・学級文庫設置</li> <li>・(各分野ごとの)ブックリスト学級配布</li> <li>・レファレンス充実</li> </ul>	<p>B</p>	<p>図書館利用授業時数は40時間(2023年1月現在)で、今後さらに利用が予定されている。学級文庫は生徒の進路希望を考慮しながら設置した。また、各クラスには様々な分野の本を紹介したブックリストを配布した。生徒からの読書相談、進路実現に向けた資料提供等、レファレンスにはその都度真摯に対応した。</p>
	<p>生徒、職員が利用しやすい学習センターとしての図書館づくり</p>	<p>テーマ展示コーナーの充実 (年間 12 回以上)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考査前1週間の開館時間延長</li> <li>・図書館終礼</li> <li>・机配置の工夫</li> <li>・感染症予防</li> </ul>	<p>A</p>	<p>考査前は1時間強程度開館時間を延長し、生徒の学習に供した。昨年度末に飛沫防止パーテーションが全机に設置され、読書・学習環境が充実した。昼休み時間には特に3年生の利用が増えたが、机の配置変更により、一人ひとりに十分な学習スペースを確保することができたことによると思われる。</p>
<p>アーカイブズセンターとしての機能充実</p>	<p>東稜高校の歩みを物語る貴重な歴史資料の収集・保存・活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東稜高校アーカイブズを開館し、アーキビスト又は館長を置く。</li> <li>・東稜高校アーカイブズ規程の策定・周知</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係部署との連携</li> <li>・アーカイブズイベントの開催</li> <li>・生徒図書委員会の活動活性化</li> </ul>	<p>A</p>	<p>東稜高校アーカイブズ主催の展示「熊本地震と東稜高校」「熊本空襲と東稜高校アーカイブズ」は新聞・テレビ等に大きく取り上げられた。パワーポイント「東稜高校の歴史と資料保存」を作成し、文化祭でも上映され、観覧した生徒たちからは本校を誇りに思うという声が寄せられた。生徒図書委員会は県庁や県立図書館にまで調査にいくなど積極的に活動に取り組んだ。</p>

#### 4 学校関係者評価

- ・全体的に生徒も保護者も職員もアンケート結果の評価が上がっているのも、学校改革がしっかりと進められていると思う。
- ・高校入試の出願者数が増加しているのも、広報活動の成果であると思う。
- ・自学力の醸成について、タブレット端末にはメリット・デメリットの両面があると思うので、活用の仕方に工夫が必要である。
- ・生徒たちにとって、学ぶことが楽しいと思えないと、学ぼうとしないのではないか。
- ・学習の入り口はICTが良いと思うが、そこからいかに学びを深めるのかが教師の役割だと思う。
- ・本校では、国際コースで中国語と韓国語を学べることを、もっとアピールすべきではないか。

#### 5 総合評価

##### 【重点目標（5項目）評価】

- (1) 生徒指導の充実（生活習慣の確立、規範意識の醸成、自己効力感の向上、職員間連携）

評価項目数計[8] A[3]B[4]C[1]D[0]

8項目中7項目で目標が達成できている。規範意識、情報モラル、自主的・主体的活動、生徒理解や支援の充実、生活習慣、心身の健康に対する意識に関する取組が評価できる一方で、交通安全に関する取組で目標を達成できていない。

【関連小項目：評価】※ ()内は大項目名

「規範意識に関する指導の充実：B、情報モラル教育の充実：A、交通安全教育の徹底および充実：C（生徒指導）」「自主的・主体的な活動の推進：B（生徒の自主性の涵養）」「生徒の理解及び支援の充実：A・B（生徒理解・教育相談・特別支援教育）」「生活習慣の確立：B、心身の健康や安全に関する十分な指導：A（健康教育）」

- (2) 学習指導の充実（教科の専門性の向上、実践的授業力の向上、自学力の育成）

評価項目数計[2] A[1]B[0]C[1]D[0]

取組2項目では、学力向上に関する取組が評価できる一方で、自学力の醸成に関する取組で目標を達成できていない。

【関連小項目：評価】※ ()内は大項目名

「授業を主体とした学力向上の取組：A、自学力の醸成：C（学力向上）」

- (3) 進路指導の充実（系統的指導の充実、自己実現のための基盤づくり）

評価項目数計[2] A[0]B[2]C[0]D[0]

取組2項目全てで目標が達成できている。コロナ禍の中でオープンキャンパスやインターンシップなど、参加が難しいものがあった。

【関連小項目：評価】※ ()内は大項目名

「キャリア教育の充実：B、進路目標の達成：B（キャリア教育・進路指導）」

- (4) 学校環境の整備（物的環境の整備、人的環境の整備）

評価項目数計[10] A[4]B[4]C[2]D[0]

取組10項目中8項目で目標が達成できている。学校改革の推進、防災教育、学校運営協議会、整理整頓、環境教育の充実に関連する取組が評価できる一方で、開かれた学校づくり、安全管理体制の確立の取組で目標を到達できていない。

【関連小項目：評価】※ ()内は大項目名

「学校改革の推進：A、開かれた学校づくり：C・A（学校経営）」「防災教育：B・B、学校運営協議会：A（地域連携・コミュニティ・スクールなど）」「安全管理体制の確立：B・C（健康教育）」「整理整頓、清掃の促進：A、環境教育の充実：B（環境教育）」

- (5) 豊かな人間性の涵養（個性の伸長、多様性の理解と共生、読書の習慣化）

評価項目数計[11] A[4]B[6]C[1]D[0]

取組11項目中10項目で目標が達成できている。人としての在り方生き方に対する自覚の深化、命を大切にする心を育む、コースの特色、図書館教育に関連する取組が評価できる一方で、人権尊重の精神に立った学校づくりに関連する取組で目標を達成できていない。

【関連小項目：評価】※（）内は大項目名

「人権尊重の精神に立った学校づくり：C、人としての在り方・生き方に対する自覚の深化：B（人権教育の推進）」「命を大切にすることを育む：B・B（いじめの防止等）」「国際コース：B、理数コース：A（コースの特色）」「読書センターとしての機能の充実：B・A、学習センターとしての機能の充実：B・A」「アーカイブズセンターとしての機能充実：A（図書館教育）」

## 6 次年度への課題・改善方策

評価項目全33項目中、目標が達成できたのは28項目（85%）、達成に至らなかったのは5項目（15%）であり、昨年度の目標が達成できた（76%）、達成に至らなかった（24%）から改善された。また、目標が達成できた28項目の内Aが12項目であり、昨年度の4項目から大きく改善された。

学校評価アンケートの前年度との比較では、生徒では33項目中32項目（99%）、保護者では32項目中27項目（84%）、職員では33項目中26項目（79%）で前年度を上回り、生徒・保護者・職員の全てで増加している。評価が前年度を上回っているのは、今年度はコロナ禍でありながら、多くの学校行事が実施されたためだと考えられる。次年度は、さらに学校行事を充実させて、評価を向上させたい。